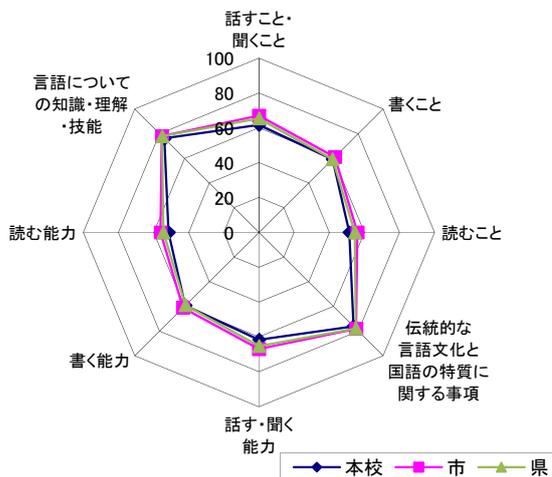


# 宇都宮市立田原中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	61.6	67.0	65.3
	書くこと	59.3	61.1	59.2
	読むこと	51.5	56.0	54.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.2	78.2	78.0
観点	話す・聞く能力	61.6	67.0	65.3
	書く能力	59.3	61.1	59.2
	読む能力	51.5	56.0	54.5
	言語についての知識・理解・技能	76.2	78.2	78.0



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市、県と比べて本校の正答率は3.7ポイント低い。 ○「司会者として話し合いの進め方の工夫をする」という問題では本校においては87.9%の正答率であり、県の正答率を1ポイントではあるが上回った。 ●「自分の考えとの共通点や相違点を整理して聞く」という問題に対して本校は32.3%の正答率であり、これは県の38.1%の正答率に比べ、6ポイント程落ち込んでいる。	話し合い活動の中で、他者意識を身に付けさせる必要がある。自分の意見を持った上で、他者の意見や立場を尊重する態度を持たせていきたい。また、自分の意見をまとめ、他者に分かりやすく伝える力も育てていきたい。そのためにも言語活動を充実させ、話す・聞く場を多く設けていくことが大切である。
書くこと	市と比べると1%程正答率が落ち込むが、県とは同等であり僅かに上回っている。 ○「目的に応じて推敲する」という問題では正答率73.7%であり、市や県に比べ1ポイントではあるが上回った。 ●「文章の書き方の工夫について記述する」という問題では10.1%という正答率で、市と比べると4ポイント落ち込んでいる。	全体的に高い正答率ではあったが、文章の書き方が身につけていないことが分かる。授業の中でも自分の意見を書かせる場面を多く設け、書くことを習慣にしていきたい。また、書くことの指導の際は適切なモデルを提示することで、生徒に見通しを持たせた上で書かせるようにしていく。
読むこと	県と比べて本校の正答率は3ポイント低い。 ●「文章の展開に即して内容を把握する」問題では正答率42.4%であり、市や県と比べて5～6ポイント程下回る結果となっている。また、「語句の文脈上の意味を理解し適切に用いる」問題も正答率53.5%である。これは県の正答率43.1%に比べると9ポイント程落ち込んでいる。	文章の展開を意識させるためにも、段落や場面ごとに内容を把握させ、それぞれの段落・場面がどのような関係であるかを考えながら文章を読んでいくよう指導していく。「文脈に即した語句の意味」については、場面における心情把握にからめて、比喩的な表現などを、作者の意図に沿って読解できるよう発問を工夫していきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は他の領域と比べて高いが、県と比べると2ポイント程落ち込んでいる。 ○「表現技法(比喩)」に関する問題では86.9%の正答率であり、市や県の正答率と比べると8～12ポイントも上回る結果となった。 ●漢字の読みに関しては、本校では3問中3問とも市や県の正答率を下回っている。書きに関しては、「夢」という問題は97.0%の正答率で市や県を2ポイント上回っているが、他2問は大きく下回っていた。	単元終了時に漢字テストを実施し、漢字の定着を図っていく。ただテストを行うだけでなく、書けない・読めない漢字は繰り返し練習させることや、再テストを実施するなど、確実に身につけさせていきたい。また、まめに辞書を引かせ、既習事項については漢字で表記するよう習慣づけていく。